

竹取新聞

株式会社 カグヤ
東京都新宿区西新宿3-2-11
新宿三井ビルディング
2号館10階



第123版

理念と実践で
絆を結びます

平素より弊社の商品をご愛顧頂きましてありがとうございます。この新聞は、「子ども第一義」の理念のもとに活動しているカグヤクルーの日々の出来事・内省を発信することで、皆様の保育に少しでもお役に立てればと始めたものです。記事中はそのまま実践を表現することを優先し、乱筆乱文で恐れ入りますが、何卒ご容赦くださいますようお願いいたします。

カグヤクルーブログも
毎日元気に配信中！

カグヤウェブサイト



www.caguya.co.jp

「聴福庵」の情報はFacebookで
f 神家総本家 聴福庵



生き物大好き つばさっこ

いんじゃない？」などと子どもたち同士が話し合う姿から、誰かを責めるのではなく、生き物の命を心配したり、次はどうすれば良いのかを考える力が育っていることを感じられたそうです。

「今後も小さな命たちに力を借りて、子どもたちの探求心を刺激し、調べる楽しさを感じていって欲しいと願っています。他者を知ることが自分を大切にできる人、他者を大切にできる人は自分をも大切にできる人、違いありません。この恵まれた自然の中で、匂い、感触などの五感を刺激する体験を重ねていく子どもたちの、心身の成長をそっと見守っていきたいと思います。」そんな風に実践園報告を締めくくられた園様の発表からは、『園らしさ』や『園の持ち味』を存分に活かし切った日々の保育に取り組みされていることが伝わり、とても素敵なことだと感じました。



2歳児との交流も兼ねて、割り箸とあたりめ『ザリガニ釣り』を体験。

後日、裏面にもあります通り、弊社の『むかしの田んぼ』のイベントにご参加いただいた際にも「卵を抱えたザリガニが数匹いるので、もし参加されどこの園で欲しい方がいらっしやいましたら…」とお声がけ下さり、東京都の千代田せいが保育園の先生がお持ち帰りになりました。数日後に孵化し、子どもたちと観察することが出来たそうです。

自園らしさを発揮していく中で、このようにご縁が深まっていたり、自園だけでなく他園の子どもたちの学びにも繋がっていくこともまた自然な関りなのだと感じ、両園の取り組みに心温まる思いがしました。



ザリガニの赤ちゃんが50匹ぐらい孵ったそうです！！

子どもの育ち

長崎県見守る保育研究会事務局から、『幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿』に沿った取り組みの冊子が発行されました。

発起人であるみのりこども園の西村園長は、「当初『見守る保育』の実践書を作成しようとしていたのですが、ギビングツリー代表の藤森先生のご助言を頂き、『幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿』に沿った、乳児期からの見守る保育的な取り組み、という切り口で制作しました。また、保護者の皆様にも読んで頂けるように、写真、漫画、コメントを入れていま

す。更に臥竜塾主催研修会で作成された10の姿のポスターも載せさせて頂きました。この冊子が、皆様の保育実践の一助になればと思っています。」とご案内がありました。

全国の園が何を大切に保育を行っているかをまとめた実践集でもあり、保護者にとっでは、家庭での様々な場面において、どのような視点で子どもを見ろというかを考えるヒントにもなっているように感じました。

日々の実践の賜物が一冊にまとまったと思うと、私達も日々の積み重ねを大事にしていきたいと感じました。



冊子の購入をご希望される方は、ギビングツリーのHPから注文表をダウンロードしてご注文ください。

カグヤでは、クルー同士別々の場所にいても、互いの気持ちや様子が共有できるよう、「カグヤニュース」という社内報を毎日メール配信しています。ここでは、その中から一部を抜粋して、日々の実践をご紹介します。

育て合う場くむかしの田んぼく



種まきから稲刈りまで体験させていただき、次は収穫の喜びを味わう新嘗祭へ！

収穫の秋！ということで今年もむかしの田んぼの稲刈りを計画していましたが、関東地方に台風15号が直撃し、田んぼのある藤崎農場さんではお米を保存している倉庫のシャッターが吹き飛ばされ、停電も1週間近く続くという被害が出てしまいました。そんな過酷な状況が続く中でも、なんとか稲刈りを行えるよう田んぼの排水を下さったり、ご自身の生活もままならない中でも私たちに心を寄せ続けて下さったおかげで、なんとか稲刈り当日を迎えることができたのです。

そんな当日までどうなるかわからない中でも、今回はレギュラーメンバーに加え保育園の先生方が多くご参加下さり、むかしの田んぼ史上最多人数での稲刈りとなりました！今回は稲刈りや室礼などを担当する設営班と、炭おこしから始まる



いろんな得意が集まることでみんなの笑顔も集まり、豊かな時間となります。

まどご飯の用意などの食事班の2つに分かれてもらい、「日本人の生き方や知恵を子どもたちに伝承しよう」という趣旨のもと、参加者それぞれの得意を活かして活躍していただきました。先生方のおにぎりを握るスピードに驚かされたり、達筆と発想力を活かしてのぼりを作ってくれたり、普段お会いする時にはなかなか見られない姿を見ることができるとも、むかしの田んぼの醍醐味の一つかもしれません。

この田んぼは古くから受け継がれているお米作りを体験できる場ですが、今回のように参加する方が主体となり意見を出し合い、自然とより良い場に育ててもらっていると感じます。

これからも関わる方々に育ててもらえる、温かくて楽しい場を提供していきたいと思います。

一期一会庵

有難味

先日、味覚の中にある味わいの中に「有難味」というものがあることを知りました。

この有難味というものは食べ物を食べることに同じように、人生の様々な苦労や体験を通してはじめて分かるようになってくるように思います。

私たちは人生を左右するような非常な出来事や、艱難辛苦の出来事に会おう時、生き死に関わるような時、その最中に多くの方々に助けていただいていることに気づき、有難味という味を感じられるようになっていくように思います。

例えば、言葉としても失ってみてわかる親の有難味やご縁の有難味、九死に一生を得るような有難味、御蔭様の見守りの有難味、存在そのものの有難味というようにあるがままの価値や値打ち、その尊さの味わいに出会うのです。

人間はどのように誰もが様々な実体験を通して人生と正対し、そしてその人生の生きる価値や生きる意味などの真の豊かさに気づいていきま

す。そう思うと有難味が分かるようになってきたというのは、人生の中で味わう感謝の味がわかるようになってきたということでしょう。

そしてこの感謝の味がわかるようになってきたということは、同時に自分というものの存在価値を知り、周囲の存在価値の味が体験を通して気づくようになってくるということでもあります。

なぜなら自分を助けてくれたり、自分を救ってくれたり、自分を守ってくれたり、祈ってくれたりたくさん出会っていくからです。

人間はその豊かさにもしも気づいたなら自他の存在に感謝し、誰かの役に立てるということを学びはじめるように思います。

いのちを使って生き甲斐や遣り甲斐、そして誰かと共生しあうこと、その貢献の素晴らしさに気づいていくのです。活かし活かされ合うことで、私たちは有難味の豊かで深い存在に気づくのです。

子どもたちの自立や成長を見守ることを本業にしているからこそ、その有難味の豊かさを伝承し伝道できるように、思いやりや優しさ、ぬくもりや愛情など人生でいただいたものをさらに「感謝で磨いて」本業に邁進していきたいと思っています。

編集後記



工事が着々と進む晴海の選手村。大会開催後は分譲マンションとして改修し販売されるといいますが...

残暑厳しい日が続くなか、巷では早くもインフルエンザが流行り始めています。先日の台風による被災地への復興支援もままならない中、今月ついに消費税が10%に改定されました。国民に多額の借金を負った国の財政を考えると、増税も致し方ないことで、納税は国民の義務ではありますが、大事なものはそのお金をどう使うか

なのだとつくづく感じます。いま来年のオリンピックに向け各地で整備が進んでいます。この子孫へも受け継がれるであろうレガシーも、国民が日々懸命に生き収めた大切なお金も、真に必要なことに活かししてほしいと心の底から願って止みません。「そもそも何のためか」それを私たちは常に忘れずにいたいものです。（佐藤真樹）

カグヤは「子ども第一義」の理念を実践し、お客様の発展と自立に貢献していきます